

2021 年度 実践記録集

与論町教育委員会

与論町における海洋教育について

はじめに

与論町は「島だちの教育」を理念として掲げ、「島発ち」「島建ち」「島立ち」の3点を抱合するものとして大切にしています。その理念は、島を出発するまでに島を知り、基礎的な知識・技能を身に付けること、島を建設・創造するための課題発見力や問題解決力を育み、どこの地でも自立できるための学びに向かう力・人間性を身に付けることを目指すものです。加えて、令和の日本型学校教育においては、「個別最適な学び・協働的な学び」のキーワードに示されるように、ICTを活用した個々人の学びの促進と多様な人々と協働の充実が求められます。そのような、時代に即したこれからの学びのためにも、この海洋教育が与論町における探究的な学びの核となることを願っています。

～令和3年度海洋教育副読本より抜粋：「はじめに」与論町教育委員会教育長 町岡 光弘～

与論町の海洋教育について

・ 目標

海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して、「島だちの力」を身に付ける。

・ 内容

町内の全ての小・中・高等学校と地域住民が連携・協働しながら「与論島の海とくらしの課題についての探究活動」を展開することにより、与論島の子供たちに、自分の夢や目標に向かって力強く歩いていくための「自己開示の力・自己表現の技術・レジリエンス・豊かな職業観や勤労観・探究的に学ぶ姿勢」等(=「島だちの力」)を身に付けさせる。

令和4年度から小・中学校においては総合的な学習の時間等の時数の一部を削減し、減じた時数を海洋教育科「ゆんぬ学」に割り当てる。今年度はその以降年度として、より一層学校間の連携と地域との協働が充実した。

総合的な学習の時間で身に付けた「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」や「学び方やものの考え方」を海とともにある与論島の実社会で生かすことにより、それらの資質や能力等を海と人との共生や島だちに必要な力として強化していく。そして、それらの学びを高校で行われている総合的な探究の時間「ゆんぬ」につなぐことにより、すべての学校段階で海洋教育を具体的に推進していく。

誠の教育

「島だち」後の社会を生きていく力の育成

与論島の
活性化・持続可能化

学びに向かう力・人間性等

【島立ち】

与論島の人々との関わりの中で自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、ねばり強くしなやかに探究する心を育む。

知識・技能

【島発ち】

与論島の強みや問題点について理解し、それらをつなぐことで与論島の概念を形成している。

思考力・判断力・表現力等

【島建ち】

与論島の強みや問題点から自分なりの問いを見だし、仮説を立て、自分にできることを実践する。

島だちの力

地域と連携した協働的な探究学習



【与論町の海洋教育の目標】

海と人との共生に係る見方・考え方を働かせ、与論島の海とくらしの課題について探究することを通して、「島だちの力」を身に付ける。

海と人との共生に係る見方・考え方

高校生

総合的な探究の時間「ゆんぬ」での学び

中学生

海洋教育科「ゆんぬ学」での学び

小学生

海と人に親しむ
与論の海や与論に生きる人々の魅力を、豊かな感受性をもって捉える。

海と人をつなげる
海に囲まれた与論の自然や文化と、そこに生きる人々とのくらしを関連付ける。

海と人を守る
与論の海や与論に生きる人々を、よりよい未来を創造するための資源としてとらえる。

海と人を生かす
与論の海や与論に生きる人々を、よりよい未来を創造するための資源としてとらえる。

与論町の海洋教育において目指す学びの姿

＜小学校卒業時まで＞ 与論に生きる人々との関わりの中で与論島の強みや問題点について理解し、学んだことや行動したことを自分なりの言葉で発信することができる。

＜中学校卒業時まで＞ 探究のプロセスを活用しながら与論島の強みや問題点に迫り、与論に生きる人々との関わりの中で、自らの生き方や進路について考えることができる。

＜高校卒業時まで＞ 与論島に関する広範な知識をもとに探究を深め、社会的評価を受けることにより、自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、ねばり強くしなやかに探究する心を身に付ける。

＜高校卒業後～＞ これまでに身に付けた「島だちの力」を生かし、それぞれの社会を生き抜くことができる。

各校での海洋教育の位置付け

茶花小学校
与論小学校
那間小学校
与論中学校
与論高等学校

<p><与論町海洋教育推進 グランドデザイン> 祖先の遺訓である誠を「島に誇りを持ち、誠実で利他の心があり、真理や理想を追求する精神」ととらえ、夢や希望を持ち、粘り強く学び、変化の激しい社会で困難を乗り越えて積極果敢にたくましく生きる人間の育成</p>	<p><学校の教育目標> ティダ（夢実現）に向かって、胸を張って堂々と生きる子供を育てる</p>	<p><児童の実態> ・相手意識をもって考えを分かりやすく伝えたり、相手の話を聞いたりする力が十分ではない。 <保護者の願い> ・社会の変化に柔軟に対応できる強さをもって島たちして欲しい。 <地域の特性> ・子供一人一人を地域で見守っている。</p>
<p><海洋教育の目標></p> <p>○ 与論の海に関心を持ち、主体的に課題を解決できる子供を育てる。 ○ 活動内容に応じた追究方法やまとめ方を工夫しながら、協働して学習を進め、自分の考えを豊かに表現し、自らの生活のあり方を考える子供を育てる。</p>		

<p><他教科の関連></p> <p>① 各教科等の「見方・考え方」をつなぐ</p> <p>② 学習内容でつなぐ</p> <p>③ 指導方法でつなぐ</p>	<p>海洋教育を通して育みたい能力と態度(8 コンピテンシー)</p>		<p><地域との連携></p> <p>○ 各種教育施設や社会教育機関団体等との連携</p> <p>○ 地域の教材や学習環境の積極的な活用</p> <p>○ 与論町漁業協同組合・海の再生ネットワークよろん・ヨロンSC・誇れるふるさとネットワーク等との連携</p>
	情報収集・判断	海に関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力	
	対話	海の諸場面で円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し自己を表現する能力	
	問題解決	海の諸問題にかかわる関係者間の調整を試みながら問題を解決する能力	
	持続的利用	海の恵みを持続的に利用できる能力	
	主体	海の諸問題に関して自ら責任ある行動を起こす積極的な態度	
	継続	未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう海に関する知識や技能を継続的に学習する態度	
	関係	海を介した時空間的なつながりを尊重する態度	
感動	海に親しみ大切に作る態度		

<p>教材の工夫</p>	<p>問題解決的な学習における学習過程</p>	<p>指導方法・指導体制の工夫</p>
<p>○地域の教育資源活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人、物、事に進んで関わりをもつため町内の自然や人材、行事等の学習素材を調査し整備する。 ・総合的な学習の時間や諸行事に協力支援できる人材を募り整理する。 <p>○教材化の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間において教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるように①②③のつながりを意識した教材にする。 ・各教科で得た知識や技能を総合的に発揮できる教材にする。 ・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるような教材にする。 <p>※ 与論町海洋教育推進協議会との連携を図る。</p>	<p>(1)「課題をつかむ」段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科学習の発展として ・行事等への主体的な関わりから ・生活の中の気付きから ・様々な体験から <p>(2)「計画・追究する」段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこで、どのような方法で調べるか。 ・だれに、どのようにして伝えるか。 <p>(3)「まとめ・表現する」段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。 ・まとめたことをもとに交流する。 ・活動を振り返り、見直す。 <p>※ 体験活動を適切に位置付ける。 ※ 言語活動の充実を図る。</p>	<p>○教師の適切な指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習状況に応じた適切な指導 <p>○学習形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の枠を超えた町単位での取組 ・学年の枠を超えた異学年での取組 ・課題別グループによる取組 ・表現方法別グループによる取組 <p>○指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの活用 ・TTの活用（担任外教職員との連携） <p>○学習環境の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容により場の設定を工夫 ・学校図書館の資料の整備・充実 ・コンピュータソフトの整備・充実 <p>○評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、相互評価 <p>※ 海洋教育における評価方法の工夫改善を図る。</p>

令和3年度 海洋教育年間指導計画

学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年 伝統文化 国際理解	<p>☆身近にある自然環境と文化 「ユンヌのひみつさがし」</p> <p>「ユンヌたんけんたい」 (★海洋教育 25 時間) <input type="checkbox"/> ユンヌのいいところはどこ？ <input type="checkbox"/> 昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 <input type="checkbox"/> ユンヌの施設・観光地探検をしよう。(一日遠足) <input type="checkbox"/> ユンヌのひみつを紹介しよう。</p> <p>「教えて、ウプ・パーパー」 (22 時間) <input type="checkbox"/> 与論の昔のこと <input type="checkbox"/> ウプ・パーパーと昔の遊びを通して交流しよう。 <input type="checkbox"/> 与論の文化・伝統を調べよう。 <input type="checkbox"/> 発表会を開こう。</p> <p>わたしたちの生活と他地域とのつながり 「よろんから世界へ」 (23 時間) <input type="checkbox"/> ユンヌと交流のある地域 <input type="checkbox"/> 国々の生活や文化を調べよう。 <input type="checkbox"/> ガイドブックを作って紹介しよう。</p>											
4年 環境 町づくり ものづくり	<p>☆身近な自然環境と島の人々, 姉妹校による他地域とのつながり</p> <p>「海からのおくりもの」 (★海洋教育 44 時間)</p> <p>「海と島とわたしたち」 (2 6 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 与論の海に親しもう。 <input type="checkbox"/> 海の生き物を調べよう。 <input type="checkbox"/> 海の中はどうなっているのかな。(グラスボート) <input type="checkbox"/> 海岸の漂着物で何かできないかな。 <input type="checkbox"/> 商品を開発してバザーに出店しよう。 <input type="checkbox"/> 島の人々を応援しよう。(ポスター作成) 											
5年 環境 食 伝統文化	<p>☆身近な自然環境とそこに起きている環境問題</p> <p>「ユンヌの海とわたしたち」 (★海洋教育 6 2 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 与論の海の今を知ろう。～課題設定～ <input type="checkbox"/> 与論の海を守ろう～情報の収集～ <input type="checkbox"/> 与論の海を守ろう～体験活動を通して～実態調査を通して～ <input type="checkbox"/> 学んだことを発信しよう <p>5月 プール掃除 (2 時間)・プール開き (1 時間)</p> <p>6月 コース見極め (1 時間)・検定 (1 時間)・遠泳大会 (3 時間)</p> <p>7月 水泳記録会練習 (2 時間)・着衣水泳 (1 時間)</p>											
6年 町づくり キャリア	<p>☆町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織</p> <p>「ヨロンのタカラ探し!!」 (★海洋教育 6 5 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 修学旅行で与論と沖縄の違いを見つけ、まとめる。(興味・関心) <input type="checkbox"/> 与論のよさを考え、課題を決め、探究の計画を立てる。(課題の設定) <input type="checkbox"/> グループのテーマに沿って調べる。(情報の収集) <input type="checkbox"/> 中間発表を行い、プレゼン大会 (ヨロン海洋教育フェア) へ向けた計画を立てる。(整理・分析) <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中間発表での課題をもとに、発表の準備をする。(課題の追求) <input type="checkbox"/> ヨロン海洋教育フェアで発表する。(まとめ・表現) <p>5月 プール掃除 (2 時間)・プール開き (1 時間)</p> <p>6月 コース見極め (1 時間)・検定 (1 時間)・遠泳大会 (3 時間)</p> <p>7月 水泳記録会練習 (2 時間)・着衣水泳 (1 時間)</p>											

海洋教育全体計画

与論町立与論小学校

学校の教育目標		
主体的に学び、深く考え、確かな学力と豊かな心を身に付けた、たくましい子供を育てる。		

めざす子供像		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 進んで学ぶ・・・課題をもち、意欲的に学習する子供 ○ 深く考える・・・よく考え、誠の心で行動する子供 ○ やりぬく・・・目標をもち、がんばる子供 		

海洋教育のねらい		
海洋教育は、海と人の関係について理解を深めるとともに、海洋教育の保全を図りつつ、国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海を知り、海に親しみ、海を守り、海を利用する学習を推進する。		

本年度の重点目標		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 与論の自然豊かな海に関心をもち、課題を意欲的に解決できる子供を育てる。 ○ 探究・体験活動に進んで取り組み、自分の考えをもち、自己の生き方について考えることができる子供を育てる。 		

各学年の海洋教育の内容				
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ユンヌフトゥバ⑩ ○ふるさとたんけん和論島⑧ (4月～7月) ○郷土芸能に親しもう⑧ ○先人の知恵に学ぼう⑭ (10月～12月) ○校内水泳大会①、着衣水泳① ○思い出遠足④ 	育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
		自分たちのふるさと「和論島」について、海や地域のくらし、働く人の姿を調べることができる。	自ら設定した課題を解決するために見学やインタビューなど自分なりの方法で追究し、調べたことを工夫してまとめることができる。	課題の解決に向けて、目的意識をもって取り組むことができる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○ユンヌフトゥバ⑩ ○与論の水⑰(12月～3月) ○郷土芸能に親しもう⑥ ○郷土芸能について調べよう⑫ ○遠泳大会③、着衣水泳① ○思い出遠足④ 	育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
		川のない与論の人々が水を得るためにどのような苦労や知恵を出し合ってきたか知り、水の大切さを考えることができる。	水のことについて調べ、自己の生き方につなげて考えることができる。	課題の解決に向けて、目的意識をもって意欲的に取り組むことができる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○ユンヌフトゥバ⑩ ○与論をプレゼンしよう⑧(5月～7月) ○郷土芸能に親しもう⑤ ○サンゴの養殖・保全活動体験⑮ (10月～12月) ○体験学習 ○遠泳大会③、着衣水泳① ○思い出遠足④ 	育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
		与論をテーマに伝えたいことを発見し、分かりやすいプレゼンの資料を作成することができる。	課題解決のために、必要な情報を集めることができ、それを蓄積することができる。	課題意識をもち、自分なりの方法で学習、探究活動に取り組むことができる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○ユンヌフトゥバ⑩ ○修学旅行先を調べよう⑮ ○郷土芸能に親しもう⑤ ○与論のよさを伝えよう⑲ (10月～3月) ○修学旅行 ○遠泳大会③、着衣水泳① ○思い出遠足④ 	育成を目指す具体的な資質・能力		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
		故郷である与論について改めて考えたり、調べたりすることを通して、与論のよさを実感することができる。	自分の興味・関心を基に、海洋教育に沿った学習課題を見つけ、考えることができる。	海洋教育に対して課題意識をもち、自分なりの方法で工夫しながら学習、探究活動に取り組むことができる。

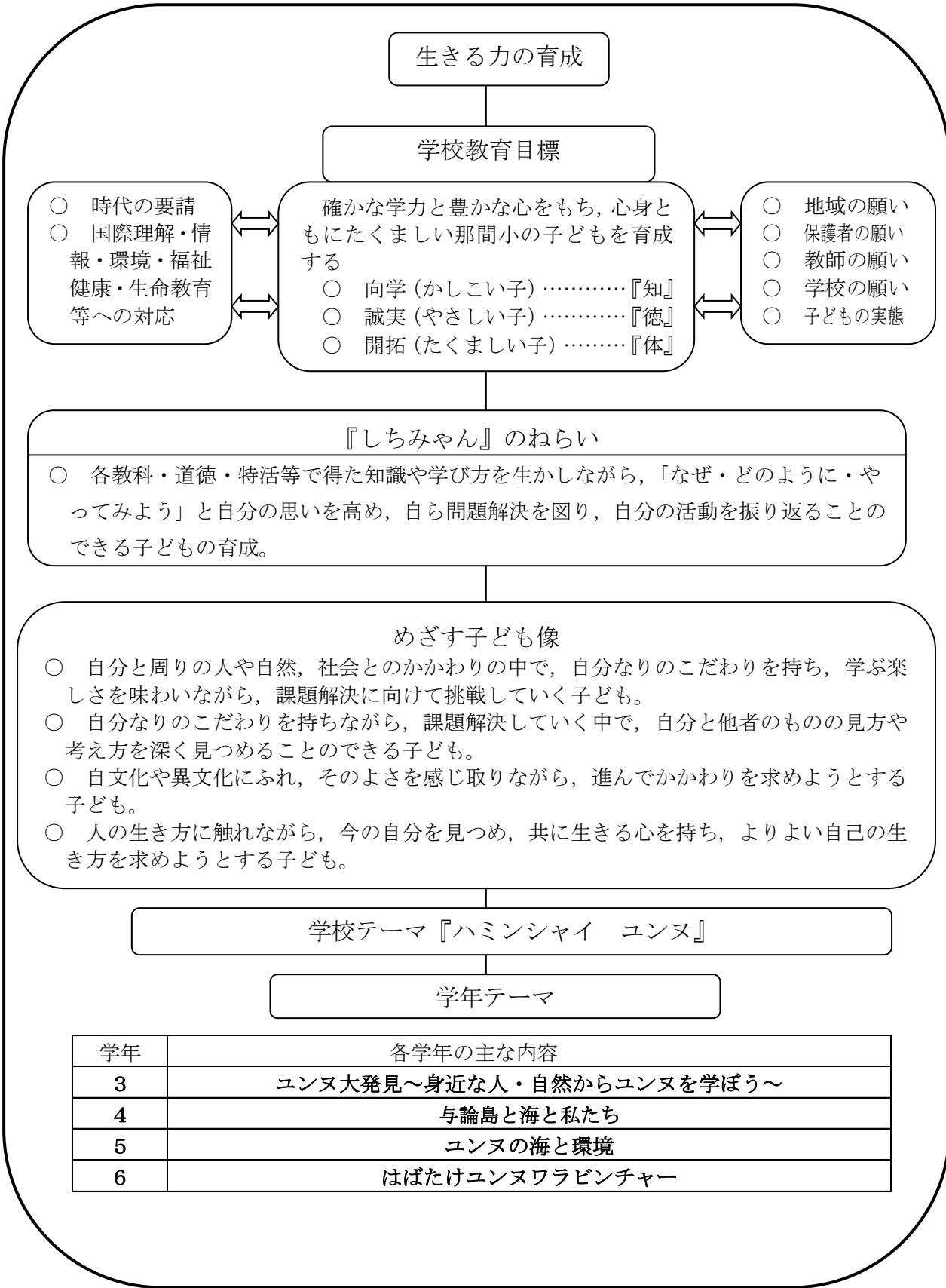
海洋教育 年間年間指導計画

	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生				着衣水泳①							思い出遊果④
			校内水泳大会①		ユンヌフトゥバ⑩						
2年生		道徳 「およげないり ずさん」	国語 「スイミー」	着衣水泳①							思い出遊果④
			校内水泳大会①		ユンヌフトゥバ⑩						
3年生				着衣水泳①				道徳 「みんなのわき 水」			思い出遊果④
		ふるさとたんけん 与論島⑤		校内水泳大会①	郷土芸能に親しもう⑧	先人の知恵に学ぼう⑭		ユンヌフトゥバ⑩			
			国語 「もうすぐ雨 に」								

海洋教育 年間年間指導計画

	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年生		社会 「水はどこか ら」	道徳 「海をこえて」 理科 「雨水のゆくえ と地面の様子」	遠泳大会② 着衣水泳①	国語 「ぼくは川」		社会 「谷に囲まれた 大地に水を引く」		与論の水⑰		
					郷土芸能に親しもう⑧	郷土芸能・行事について調べよう⑱		ユンヌフトゥバ⑩			
5年生			理科 「魚の誕生」 宿泊学習	遠泳大会② 着衣水泳①	社会 「水産物のさか んな地域」	与論のサンゴを守るろう⑲サンゴの養殖・保全活動体験					思い出遊果④
		与論をプレゼンしよう⑥			郷土芸能に親しもう⑤	理科 「捨てる水のは たらき」	ユンヌフトゥバ⑩				
6年生			修学旅行	遠泳大会③ 着衣水泳①							思い出遊果④
		修学旅行の旅先を調べよう⑳			郷土芸能に親しもう⑤	与論のよさを伝えよう㉑					
											国語 「海の魂」 理科 「地球に生き る」

総合的な学習の時間『しちみゃん』の全体計画



令和3年度 年間指導計画一覧表

☆…海洋教育関連

太字…学年テーマ

学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年 伝統文化 国際理解	<p>☆ユンヌ大発見 ～身近な人・自然からユンヌを学ぼう～</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ユンヌのじまんを見つけよう」 (30 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ユンヌのいいところはどこ？ ○昆虫探しや海岸の生き物探しをしよう。 ○ユンヌの施設・観光地探検をしよう。(一日遠足) ○ユンヌのひみつを紹介しよう。 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ユンヌの名人さん、大集合」 (21 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○与論の昔のこと ○ウプ・パーパーと昔の遊びを通して交流しよう。 ○与論の文化・伝統を調べよう。 ○発表会を開こう。 </div> </div>											
4年 環境 町づくり ものづくり 食	<p>☆知ろう 育てようユンヌの海と作物 ～地域を支える自然・産業に触れて～</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「調べよう 作ろう ユンヌの作物」(27時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 与論の気候にあった作物を育て、収穫・加工することにより、郷土の農業の特色を知るとともに、親しみを持つ。 ○ 与論島の産業やサトウキビの歴史について調べ、生命や自然の大切さを感じる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「与論島と海と私たち」(☆海洋教育34時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海に親しむ活動を通して、海辺の自然環境に目を向けたり、地域素材を使ったもの作りの面白さを楽しんだりして、身近な自然環境について学ぶ。 ○ 与論の自然(海)を調べたり、体験や活動したりしたことをまとめ、発表する。 </div>											
5年 環境 伝統文化	<p>☆ユンヌの海と環境 ～仲間と共に学び合おう～</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆「ユンヌの海と環境問題」(☆海洋教育40時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 与論の海の今を知ろう～課題設定～ ○ 与論の海を守ろう～情報の収集～ ○ 与論の海を守ろう～体験活動を通して～ ～実態調査を通して～ ○ 学んだことを発信しよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「仲間とともに学び合おう」(22時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 宿泊学習について知ろう ○ 宿泊学習 ○ 宿泊学習を振り返ろう ○ これまでの自分を振り返ろう (13祝いに向けて) </div>											
6年 町づくり キャリア	<p>☆はばたけユンヌワラビンチャー ～自分の未来を見つめて～</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「与論の魅力を発信しよう」(☆海洋教育52時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行で与論と沖縄の違いを見つけ、まとめる。(興味・関心) ○与論のよさを考え、課題を決め、探究の計画を立てる。(課題の設定) ○グループのテーマに沿って調べる。(情報の収集) ○中間発表を行い、発表会へ向けた計画を立てる。(整理・分析) ○中間発表での課題をもとに、発表の準備をする。(課題の追求) ○大会で発表する。(まとめ・表現) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「卒業に向けて」(10時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業に向けた取組を確認し、役割分担をする。(課題の設定) ○グループごとに、テーマを決めて取り組む。(課題の追求) </div>											

<p>関係法規等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 	<p>学校教育目標</p> <p>生徒の夢実現に向けて、確かな学力と豊かな心を育てる。</p>	<p>生徒の実態</p> <p>与論の海の素晴らしさや海に隔たれた離島であることによって育まれた豊かな文化等についての知識がやや乏しい。</p>
<p>めざす学校像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒と職員が生き生きと活動する学校 2 生徒が自覚をもって登校し、自信をもって下校する学校 3 整然と整備され、清潔で美しい学校 4 保護者や地域に信頼され、心のよりどころとなる学校 	<p>目指す生徒像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 元氣な挨拶、明るい笑顔、はいという返事ができる生徒 2 目標をもって意欲的に学習する生徒 3 与論に誇りをもつ生徒 4 仲間を大切にし、活力あふれる生徒 	<p>家庭・地域の願い</p> <p>地域は鹿児島最南端の離島ということもあり、与論島の魅力や文化を十分に理解しているとは言いがたい側面がある。学校教育に対しては非常に協力的であり、また期待も高い。</p>
		<p>めざす職員像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 常に学び続ける職員 2 教育への使命感をもち、自ら燃え情熱を傾ける職員 3 チームとして生徒一人一人を育てる職員 4 保護者や地域に愛され、信頼される職員

海洋教育で目指す生徒像	
<ol style="list-style-type: none"> 1 様々な体験活動を通して海の自然に親しみ、海に進んでかかわろうとする生徒 2 海の自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、主体的に調べようとする生徒 	<ol style="list-style-type: none"> 3 海の環境保全に主体的にかかわろうとする生徒 4 水産物や資源、船舶等を用いた人や物資の輸送について理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる生徒

海洋教育の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・職員自身が海洋教育への理解を深め、小学校、高等学校との関連性をもたせた教育課程を編成する。 ・海洋教育年間計画を作成し、実施、評価、改善を常に行っていく。

育成すべき力と態度			
情報収集・判断力	対話力	問題解決力	主体的に学ぶ力
与論の海、世界の海に関して適切な情報を収集し、総合的に判断する能力	海洋教育の様々な場面や教育活動全般において円滑なコミュニケーションを行うために他者を理解し、自己を表現する能力	海や与論島の諸問題を主体的にとらえ、その問題解決のための手段を考え実行できる能力	海の恵みを持続的に利用する方法を学んだり、与論島の発展のために学び続けることができる能力
感動 海に親しみ、その美しさを次の世代にもつないでいこうとする態度	継続 未来を見据え変わりゆく社会に対応できるよう海に関する知識や技能を継続的に学習する態度	関係 海を介した時空間的なつながりによって育まれた与論独自の文化や風習を理解し、尊重する態度	主体 海の諸問題に関して自ら責任のある行動を起こす積極的な態度

各学年の重点目標及び主な活動、指導内容			
1学年	2学年	3学年	特別支援学級
<p>重点目標</p> <p>海に関する興味・関心を高め、主体的に学ぶ力の基盤を作り上げる。</p> <p>活動例・指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団体験学習での与論の海に関する講話、海でのマリンスポーツ、安全に関する講話 ・修学旅行事前学習での口之津移住に関する史実の理解 	<p>重点目標</p> <p>対話力が高められるように教育活動全般で、対話を意識した実践に努める。</p> <p>活動例・指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十五夜踊りに関する講話と見学 ・製糖工場等の職場見学 ・修学旅行での大牟田と与論会との交流 	<p>重点目標</p> <p>情報収集・判断力を高めつつ、総合的な学習の時間のまとめレポートで問題解決力を発揮できるようにする。</p> <p>活動例・指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会に関する各教科学習 ・総合的な学習の時間のまとめレポートの作成 	<p>重点目標</p> <p>海の素晴らしさに感動する態度を育み、安全に海に親しむ方法を学ぶ。</p> <p>活動例・指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当学年での総合的な学習における活動への参加

各教科	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	その他の活動
教科の目標の中に「育成すべき力と態度」を見いだして、その向上に努める。(例: 国語や英語の対話力など)教科の学習を通して、与論の海や海を通じた世界とのつながりについて考える契機とする。また将来の生活に必要な知識や技能を習得させ、生涯にわたって学習する喜びを見出させる。	人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。自己が属する様々な集団の意義について理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める。勤労の尊さや意義を理解するとともに、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。「郷土の先人」、「不屈の心」・与論のことわざ等を活用し、郷土の伝統と文化を尊重し、強度を愛する態度を育成する。	探究的な見方・考え方を働かせ、課題を発見し、よりよく課題を解決しようしたり、自分の生き方を探ろうとしたりする資質・能力を育成する。探究的な学習の過程で、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、地域の良さに気付かせる。課題解決に向けて、調査したり、考察したりする力とともに、考えたことを根拠をもとに表現する力を育成する。主体的・協働的に学習に取り組み、地域や社会の発展に寄与しようとする態度を育てる。	人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。学校行事では、「集団体験学習」、「修学旅行」、「文化祭」などの行事で「育成すべき力と態度」を育てることを意識した指導を実践していく。	朝読書の活動や給食指導、保健指導、生徒会活動等あらゆる教育活動の中で「育成すべき力と態度」を見いだして、その能力・態度の向上に努める。(例: 朝読書の中での情報収集・判断力の育成など) 進路指導においても島立ちを見据えた指導を行い、高等学校卒業後に自立した生活を送れるよう郷土に誇りを持ち、その良さを発信できる対話力を高めていく指導を実践していく。

海洋教育を推進するための基盤・指導上の留意事項		
職員研修を行い、共通理解を図る推進組織の整備及び指導体制の確立、関係する分掌や職員の協働体制の強化	与論高校・3小学校などとの連携や交流	保護者、地域、関係機関との連携。海洋教育の重要性について情報を発信し、理解を図る。地域人材を生かした海洋教育の推進

海洋教育 年間指導計画 与論島の魅力 再発見～海に囲まれた島の過去・現在そして未来へ～ 令和3年度

学期	第1学年			第2学年			第3学年			教科	地域
	科目	地域	学期	科目	地域	学期	科目	地域	学期		
一学期	1	4	海洋教育に関するオリエンテーション	1	4	海洋教育に関するオリエンテーション	1	4	海洋教育に関するオリエンテーション		
	2	1	集団体験学習に向けて	2	4	先人に学ぶ(大牟田での交流)	2	3			
	3	3	サンゴに関する環境教育	3	5	修学旅行のまとめ①②	3	4	職場体験学習1日目		
	4	4	海洋汚染に関して	4	6	与論の今に関するミニレポート作成①	4	5			
	5	5	マリンスポーツ体験及び安全確保の基礎知識	5	7	与論の今に関するミニレポート作成②	5	6			
	6	6	与論の歴史を知る学習のまとめ	6	8	与論の今に関するミニレポート作成③	6	7			
	7	7	与論の歴史や問題を①	7	9	与論の今に関するミニレポート作成④	7	8			
	8	8	与論の歴史や問題を②	8	10	与論の今に関するミニレポート作成⑤	8	9			
	9	9	与論の歴史や問題を③	9	11	与論の産業等を学ぶ職場見学	9	10			
	10	10	与論の歴史や問題を④	10	12	与論の今に関するミニレポート作成⑥	10	11			
	11	11	与論の歴史や問題を⑤	11	13	与論の今に関するミニレポート作成⑦	11	12			
	12	12	与論の歴史や問題を⑥	12	14	与論の今に関するミニレポート作成⑧	12	13			
	二学期	13	5	修学旅行	13	15	与論の今に関するミニレポート作成⑨	13	14		
14		9	与論の今に向けて	14	16	与論の今に関するミニレポート作成⑩	14	15			
15		15	与論の今に向けて	15	17	修学旅行	15	16			
16		16	与論の今に向けて	16	18	伝統や文化を知る	16	17			
17		17	第1回郷土学習(清洲)	17	19	伝統や文化を知る	17	18			
18		18	第1回郷土学習のまとめ	18	20	現状を知る	18	19			
19		19	職業調べ	19	21	先人に学ぶ	19	20			
20		20	職業調べ	20	22	伝統や文化にふれる	20	21			
21		21	口之津、大牟田移住の歴史に学ぶ	21	23	伝統や文化にふれる	21	22			
22		22	第2回郷土学習	22	24	伝統や文化にふれる	22	23			
23		23	第2回郷土学習	23	25	伝統や文化にふれる	23	24			
24		24	ユネスコフトラバ学習	24	26	ユネスコフトラバ学習	24	25			
25		25	ユネスコフトラバ学習	25	27	第2回郷土学習のまとめ	25	26			
26	26	第2回郷土学習のまとめ	26	28	第2回郷土学習のまとめ	26	27				
27	27	第2回郷土学習のまとめ	27	29	第2回郷土学習のまとめ	27	28				
28	28	第2回郷土学習のまとめ	28	30	第2回郷土学習のまとめ	28	29				
三学期	29	30	第2回郷土学習のまとめ	29	31	現状を知る	29	30			
	30	31	第2回郷土学習のまとめ	30	32	現状を知る	30	31			
	31	32	第2回郷土学習のまとめ	31	33	現状を知る	31	32			
	32	33	第2回郷土学習のまとめ	32	34	現状を知る	32	33			
	33	34	第2回郷土学習のまとめ	33	35	現状を知る	33	34			
	34	35	第2回郷土学習のまとめ	34	36	現状を知る	34	35			
	35	36	第2回郷土学習のまとめ	35	37	現状を知る	35	36			
	36	37	第2回郷土学習のまとめ	36	38	現状を知る	36	37			
	37	38	第2回郷土学習のまとめ	37	39	現状を知る	37	38			
	38	39	第2回郷土学習のまとめ	38	40	現状を知る	38	39			
	39	40	第2回郷土学習のまとめ	39	41	現状を知る	39	40			
	40	41	第2回郷土学習のまとめ	40	42	現状を知る	40	41			
	41	42	第2回郷土学習のまとめ	41	43	現状を知る	41	42			
42	43	第2回郷土学習のまとめ	42	44	現状を知る	42	43				
43	44	第2回郷土学習のまとめ	43	45	現状を知る	43	44				
44	45	第2回郷土学習のまとめ	44	46	現状を知る	44	45				
45	46	第2回郷土学習のまとめ	45	47	現状を知る	45	46				
46	47	第2回郷土学習のまとめ	46	48	現状を知る	46	47				
47	48	第2回郷土学習のまとめ	47	49	現状を知る	47	48				
48	49	第2回郷土学習のまとめ	48	50	現状を知る	48	49				
49	50	第2回郷土学習のまとめ	49			49					
50		第2回郷土学習のまとめ	50								

令和3年度 「総合的な探究の時間」 ゆんぬ 年間授業計画(1,2年)

月	日	曜	限	1 学年	2 学年	概要等
4	9	金	6	キャリアパスポートの導入	キャリアパスポートの導入	
	16	金	6	探究導入①(動画視聴等)	探究導入①(動画視聴等)	プレゼン参考動画視聴(町事務局準備)
	23	金	6	探究導入②(「探究とは何か?」講義)	探究導入②(「探究とは何か?」講義)	1年: 田口先生 2年: 町事務局
	30	金	6	クレペリン検査		2年未定
5	7	金	6			PTA総会
	21	金	5	探究導入③	探究導入③	地域サポーターの方との交流で、地域のことを知り、問いを考える。
	21	金	6	(地域を知り、考え、発信する)	(地域を知り、考え、発信する)	
	28	金	6	探究導入④(思考の見える化)	探究導入④(思考の見える化)	
6	4	金	6			体育祭予行
	11	金	6	問いの仮設定①(個人ワーク)	問いの仮設定①(個人ワーク)	<p>1年 問いをもとにグループ分けを行いグループで活動する。中間発表までに①問い ②問いの設定理由 ③現状報告④今後の活動予定等をまとめ、発表する。</p> <p>2年 個人で問いを設定し、探究を行う。必要があればこの時点でのフィールドワークも可。問いの内容次第でグループを組むことも認める予定。中間発表で進捗と予定を報告する</p>
	18	金	6	問いの仮設定②(問い選び)	個人ワーク①	
	25	金	6	問いの仮設定③(グループ決定)	個人ワーク②	
7	2	金	6	グループワーク①	個人ワーク③	
	9	金	6			
	16	金	6	グループワーク②	個人ワーク④	
9	3	金	6			
	10	金	6	グループワーク③	個人ワーク⑤	
	17	金	6	グループワーク④	個人ワーク⑥	
	24	金	6	中間発表会①(2年生発表)	中間発表会①(2年生発表)	各学年の発表。発表でない学年も参観し、多くの人から意見を得る機会を設定する。
10	1	金	6	中間発表会②(1年生発表)	中間発表会②(1年生発表)	
	8	金	6	グループワーク⑤	個人ワーク⑦	<p>それぞれ知識や経験のある方を講師としてお願いする。(島内予定)</p> <p>各学年中間発表での意見等も参考にしながら、探究活動を行う(各自フィールドワークも実施)</p> <p>1年生はパワーポイント等を用いたプレゼンテーション、2年生はポスターセッションを想定した発表を行う。</p>
	15	金	6	プレゼンテーション講義	ポスターセッション講義	
	22	金	6	グループワーク⑥	個人ワーク⑧	
	29	金	6	グループワーク⑦	個人ワーク⑨	
11	5	金	6	グループワーク⑧	個人ワーク⑩	
	12	金	6	グループワーク⑨	個人ワーク⑪	
	19	金	6	グループワーク⑩	個人ワーク⑫	
	26	金	6	グループワーク⑪	個人ワーク⑬	
12	3	金	6	グループワーク⑫	修学旅行	
	17	金	5	校内最終発表会	校内最終発表会	
	17	金	6			
1	14	金	6	グループワーク⑬	個人ワーク⑭	
	28	金	5	第2回海洋教育フェア(予定)	第2回海洋教育フェア(予定)	
	28	金	6			
2	4	金	6	グループワーク⑭	個人ワーク⑮	
	11	金	6			建国記念日
	18	金	6	まとめ	まとめ	
	25	金	6			卒業式設営等
3	4	金	6	まとめ	まとめ	
	11	金	6			クラスマッチ
	18	金	6	まとめ	まとめ	

各校での学習指導案
(単元計画・授業案)

茶花小学校
与論小学校
那間小学校
与論中学校
与論高等学校

茶花小学校

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

令和3年7月7日(水) 5校時
計28名
指導者 吉永 紀子

1 単元 「ヨロンの海と私たち」

2 目標

前時までに学習した与論の海の現状をもとに、疑問に思うことや調べたいことを考え、与論の海を守るために追究したい課題を設定することができる。 【思考力、判断力・表現力等】

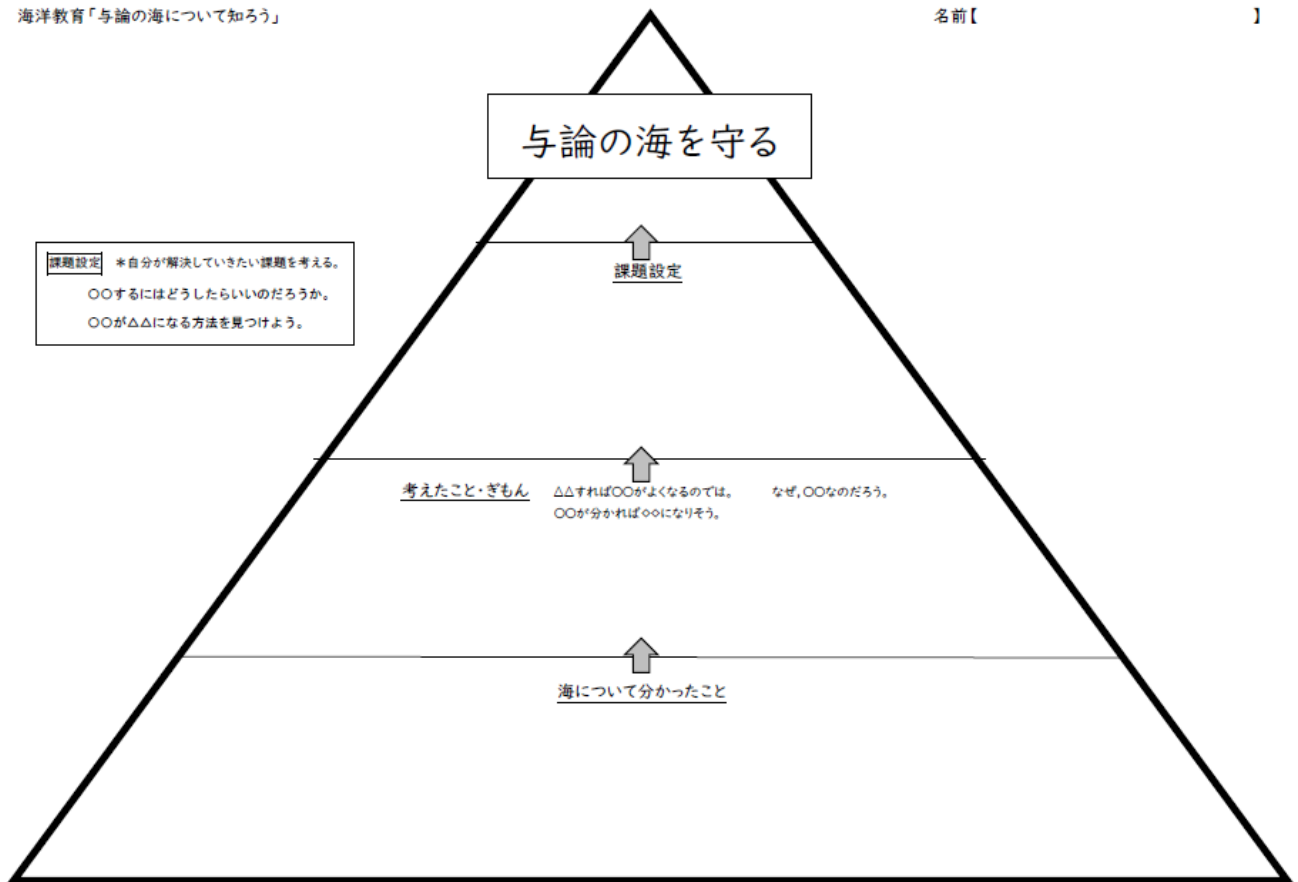
3 実 際

過程	主な学習活動	形態	時間	○教師の支援・■評価
つかむ	1 前時の学習を振り返る。 2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 与論の海を守るために自分が調べたいことを考え、課題を設定しよう。 </div>	全体	2分	○ 今まで調べたり学習したりした与論の海の現状についてキラリファイルに綴ってある記録をもとに、課題を設定していくことを確認する。
見通す	3 本時の学習計画をから活動の見通しをもつ。	全体	1分	○ ピラミッド型の思考ツールを使って、課題設定する手順を確認する。(ワークシート)
調べる・深める	4 ワークシートに記入して、課題を考える。 ・ ピラミッド型の思考ツールの下層部分から記入していく。 (1) 海について分かったこと (2) 考えたこと・疑問 (3) 課題設定	個・ペア・グループ	35分	○ 一つの項目ごとに時間を区切り、個人で考えさせた後、ペアやグループの友達と意見交流をしながらアドバイスし合う時間を設ける。 ■ 与論の海の現状をもとに、自分の課題を設定することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】
まとめる	5 課題を解決するために、どのように調べていけばいいかを考える。 ・ インターネット ・ 本 ・ インタビュー	全体	5分	○ 誰にインタビューすればそれぞれの課題を解決できそうなのか考えさせ、自分に必要なインタビューの相手の見通しをもたせる。
振り返る	6 本時の学習を振り返り、次時の活動について確認する。	個人	2分	○ 「わでともか」を使い学習を振り返らせる。(発言)

5年 海洋教育ワークシート（課題設定）

海洋教育「与論の海について知ろう」

名前【
】



第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

令和4年1月13日(木) 5校時

計24名

指導者 町島 円貴

1 単 元 「ヨロンのタカラ探し」

2 目 標

ヨロンのよさを守ったり発信したりするために自分たちにできることについて発表し合う活動をとおりて、より伝わる発表の仕方について考えることができる。 【思考力、判断力・表現力等】

3 実 際

過程	主な学習活動	形態	時間	○教師の支援・■評価
つかむ	1 前時の学習を振り返る。 2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分たちの活動がより伝わるための発表方法を考えよう。 </div>	全体	2分	○ 昨年度の発表の様子を見せたり想起させたりすることで、発表に向けたイメージがもてるようにする。 ○ 目的、相手意識を確認し「伝える」ことの大切さを実感できるようにする。
見通す	3 本時の学習計画をから活動の見通しをもつ。	全体	1分	○ 学習の流れを掲示し、活動の見通しをもたせる。 ・発表→アドバイス→練習→発表→振り返り
調べる・深める	4 グループごとにアイデアを発表する。(質疑応答も含む) ・スイーツ作り ・Tシャツ作り ・ゴミ箱・景品作り ・スライド作り 【聞くポイント】 (1) 発表の仕方 ①声の大きさ②速さ③間④目線 (2) 提案内容 ①理由②実践③資料 (3) アイデア ①おもしろさ②実現性③協働性 5 発表に対してアドバイスする。 ・タブレットの活用(動画)	グループ	29分	○ 国語科の学習内容を生かし、提案の仕方の工夫を意識させた発表を促す。 ○ 同じグループのメンバーで動画を撮影することで、具体的に改善点を考えられるようにする。 ○ ポイントを意識して聞くことで、発表者に対してアドバイスができるようにする。(付箋・発言・ワークシート) ■ 聞くポイントを考慮してアドバイスしたりグループで協力して改善点を整理したりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
まとめる	6 発表の改善点をまとめて練習する。 ・聞き手に伝わるような発表の仕方 ・問いかけなどの興味を引く手法	全体	10	○ アドバイスを受けたことと動画を見比べることで、よりよい発表の仕方や内容を考えられるようにする。(ホワイトボード・ワークシート)
振り返る	7 本時の学習を振り返り、次時の活動について確認する。	個人	3分	○ 「わでともか」を使い学習を振り返らせる。 *重点項目「も」 (発言)

与論小学校

海洋教育学習指導案

3・4年 男子19名 女子18名 計37名
 指導者 教諭 西村・久保
 講師 菊 秀史

1 題材名 「何が、何だ」の使い方に慣れる。

2 本時の実際

(1) 目標

基本の4つの文型を覚え、簡単な挨拶や日常会話ができるようになる。

(2) 展開

	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 あいさつ GT: サービタン 勉強シンニヤ キチャンドー C : イダ ウワーチタバーリ ニゲーシャービュンドー 2 「与論のことわざカレンダー」 「ゆんぬふとうばカルタ」の朗唱 3 「ユンヌ検定」に挑戦する。 4 めあての確認 めあて 「何が、何だ」の使い方に慣れよう	7分	○GT とユンヌフトゥバであいさつする。 ○朗唱後、共通語を聞いてユンヌフトゥバで言えるかクイズをする。 ○2～3題出題する。
展 開	5 「何が、何だ」の言い方を知る。 (1) 例文を練習する。 ・すいかは野菜だ。 →すいかヤ 野菜ドー。 ・私が1番だ。 →ワヌガ 1番ドー。 ・おじさんは大工です。 →ウフヤ 大工エービュン。 ・あの人が校長先生です。 →アヌピチュガ 校長先生エービュン。 (2) 共通語の文を作る。 (3) ユンヌフトゥバを調べる。 6 調べたことを紹介する。 (ペア・グループ→全体)	9分 9分 9分 9分	○基本の文型を提示して、復唱させる。 (これまでの学習で自分が考えた文を発表させてもよい。) ○意味や発音を GT に補足してもらおう。 ○ワークシートに例文を書き写したり、自分で文を作ったりして練習させる。 ○GT は、児童の質問に答えたり、発音を教えたりする。 ○ペアやグループで紹介し合い、自信をもたせる。何人かに全体で発表させる。
終 末	7 本時のまとめをする。 「何が、何だ」の言い方は、「何が何ドー、エービュン」の言い方でよい。	7分	○学習の感想を発表させる。 ○GT からも感想を述べてもらい、次回に向けての意欲付けをする。

(3) 評価

基本の4つの文型を覚え、簡単な挨拶や日常会話ができたか。

単元名	郷土芸能・行事について調べよう	学期/時数	2学期 / ⑭
ねらい	○ 与論の郷土芸能や行事について調べ、それらが現在まで受け継がれてきた意義について考えることができる。 ○ 与論の郷土芸能や行事について調べる活動を通して、ふるさとへの思いや自己の生き方につなげて考えることができる。		

月	時	主な学習活動	教師の具体的なはたらきかけ
	1	1 与論の郷土芸能や行事について話し合う。 2 課題設定をする。	<ul style="list-style-type: none"> 運動会の十五夜踊りやエイサーを振り返らせながら、昔から伝わる行事にどんなものがあるか話し合わせ、学習意欲を高める。 何について調べたいか考えさせ、パンフレットなどを作ることを視野に入れて学習計画を立てさせる。
	2～6	1 与論の郷土芸能や行事について、グループや個人で調べる。	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の資料や「わたしたちの与論町」、インターネットなどを活用させる。 調べていく中で分かったことは、まとめてファイルさせる。
	7～11	1 調べたことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットや新聞など好きな方法でまとめさせる。
	12～13	1 発表会をする。	<ul style="list-style-type: none"> 各発表に対する感想、質問等の意見交換をさせる。
	14	1 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習を通して考えたことを自由に発表し合い、ふるさとへの思いや自己の生き方につなげて考えさせる。

単元名	与論の水と海	学期/時数	3学期/15
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川のない与論の人々が水を得るためにどのような苦労や知恵を出し合ってきたか知り、水の大切さを知る。 ○ 与論の水や海に関係する事柄を調べ、様々な問題や今後のことについて、自己の生き方につなげて考えることができる。 		

月	時	主な学習活動	教師の具体的なはたらきかけ
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭に届く水はどこから来ているのか、また、山がない与論は水を手に入れるためにどのような苦労や努力があったのか予想 ・ 浄水場を見学し、調べたことを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科での学習を想起させる。 ・ ふるさと探検を想起させ、どんなことを学習したか確認する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与論の海について知っていることや問題点を話し合う。 ・ 与論の水や海に関して、自分が調べたいテーマを決め、グループ分けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水と関連させて、与論の海の現状や問題点に注目させる。 ・ 与論の水や海に関するテーマを考えさせる。《昨年度は与論の家庭用水の歴史、与論の海の生き物(少なくなってきたサンゴや絶滅危惧種の魚など)と論にあるヤブーなどの調査言い伝え、最先端をいく与論の浄水場等が出た。》
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのように調べるのか、どういう形で発表するのか計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館やインタビュー、インターネットや教科書、私たちの与論町等を活用させる。司書の先生に ・ 新聞形式やパンフレット、紙芝居、クイズ形式など様々な発表を組み合わせることも伝える。
	4~9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループ、個人で調べる。 ・ 調べたことを新聞などにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土日等に校外で活動する場合は、安全指導をしておく。
	10~11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各発表に対する感想、質問等の意見交換をする。
	12~13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の話を聞き、与論の水や海に関する現状や今後の問題について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人「海の再生ネットワーク与論」の代表者(池田香菜さん)に連絡を取り、講演の依頼をする。(人材リスト参照)
	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の話の感想を発表させ、自分たちの水を育てている与論の海的美しさを保つためにはどのようなことができるか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの住んでる与論のことを身近に考えさせ、自己の生き方につなげる。 ・ 昨年度は自分が与論に会社を立ち上げどのような企画をしたら与論の海的美しさを保てるかを考えさせた。
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にできるようなものがあれば、取り上げ、体験的な活動をいれながらふるさとへの思いにつなげていくとよい。(時数等調整し、社会科と連携しながらやっていく。)

那間小學校

3年生 ユンヌ大発見 ～身近な人・自然からユンヌを学ぼう～

「ユンヌのじまんを見つけよう」 30時間

月	小単元 (学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
4	ユンヌのいいところはどこ？ (文化・生き物・海・食べ物・歴史・施設・人・環境等の良さを引き出す。)	2	身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。 (知識)	体験活動から課題を見つけることができる。 (課題の設定)	自分の意思で目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする。 (主体性)	ウェビングマップ	社会科「市の様子」との関わり 魚図鑑 生き物図鑑 与論観光マップ
4・5	じまんとさがしに自然に出かけよう (昆虫・鳥・植物探し) ・計画、探検、まとめる	6	身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。 (知識)	教師の支援を受けて、手段を選択し、適切に情報を収集する。 (情報の収集)	自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。 (協働性)	カメラ 虫かご 虫とり網	生き物図鑑 植物図鑑 昆虫図鑑
6・7	じまんとさがしに海に出かけよう (生き物・貝殻採集) ・計画、探検、まとめる	6	生物は、色、形、大きさに違いがあり、生育の環境が異なることを理解する。 (知識)	教師の支援を受けて、手段を選択し、適切に情報を収集する。 (情報の収集)	自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。 (協働性)	カメラ バケツ 魚とり網	魚図鑑 バスの手配
9・10	じまんとさがしに島をめぐる ・計画、探検、まとめる	8	自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定でないことを理解する。 (知識)	施設担当者の話やパンフレットを参考にしながら、情報を収集しようとしている。 (情報の収集)	自己の生き方やものとの考え方を考え、よりよく生きようとする。(将来展望)	カメラ メモ(しおり)	バスの手配 サザンクロスセンター 赤崎鍾乳洞 赤崎海岸
10・11	ユンヌのじまん大会をしよう(準備も含む) ・新聞、ペープサート、絵本、図鑑、クイズ、劇、マップなど	7	情報を整理・分類して探求の過程に応じた技能を身につけている。 (技能)	調べたことを分かりやすくまとめ、表現する。 (まとめ・表現)	探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。 (他者理解)		1年生を招待 先生方を招待 授業参観で
12	感想をまとめて、これからの学習の見直しをもとめよう。	1	今回の学習の手法や学んだことをこれからの学習に生かしていくことを理解する。 (知識)	友達の発表の良さを文章にまとめ、発表する。 (まとめ・表現)	友達の発表の良いところを見つけ、取り入れていこうとする。 (他者理解)		

「ユンヌの名人さん、大集合」 21時間

月	小単元 (学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
12	ユンヌには、どんな名人さんがいるかな？ (ユンヌフトゥバ、郷土料理、伝統芸能、きび作り等、身近にいる様々な名人を引き出す。)	1	地域には様々な特技を持った方がいることや昔から変わらず伝わるものがあることを理解する。 (知識)	必要な情報を収集し、蓄積する。 (情報の収集)	課題解決に向けて、探究活動に取り組もうとしている。 (主体性)	ウェビングマップ	与論観光マップ 十五夜踊りの写真 与論今昔DVD
12	ユンヌの文化・伝統行事を調べよう ・郷土料理 ・三線 ・与論の歌 ・ユンヌフトゥバ ・十五夜祭り ・奉納相撲など	3	自分が興味・関心をもった課題について、様々な調べ方の中から選択する技能を身につけている。 (技能)	情報収集の手段を選択する。 (情報の収集)	興味をもったことを進んで調べようとする。 (主体性・協働性) 探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする。 (将来展望)	カメラ インタビュー インターネット 図書	原田誠一郎さん (方言) 中山久代先生 (エイサー) 食生活改善推進員の基さん (伝統料理)
1・2	ユンヌの伝統文化を体験しよう (三線またはエイサー)	10	名人の指導をよく聞いて、進んで体験活動する。				中山久代先生 (エイサー)
2	ユンヌの伝統料理を作ってみよう ・計画、体験、まとめる	4	名人の指導をよく聞いて、進んで体験活動する。				食生活改善推進員の基さん (伝統料理)
2	発表会を開こう (三線、エイサーのどちらか) ・招待状作り ・リハーサル	3	体験活動を通して学んだ技能を身につけている。 (技能)				先生方を招待 授業参観で

4年生 知ろう 育てよう ユンヌの海と作物 ～地域を支える自然・産業に触れて～ (70時間)

月	小単元 (学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
5	与論島と海と私たち ・潮だまりにいる生物の観察。 ・海や生物の不思議について調べる。 ・浜下り (食文化・自然体験) ・貝殻や漂流物集め (造形) ・海岸のクリーン作戦	6	与論の自然 (海) について調べ、身近な自然素材を活かした物づくり等を通して自然環境について知ることができる。(知識)	自分の興味・関心、体験や今までの課題をもとにして、課題を見つけることができる。(課題設定)	ゲストティーチャーから主体的に学び、友達と協力して調理実習や制作をすることができる。(主体性・協働性)	イメージマップ KJ法 インタビュー カメラ	B&G 池田 鹿児島水族館 与論島観光協会 JA女性部 原田さん (風来坊さん)
6・7	・海や生物の不思議について調べる。	3					
9	与論島と海と私たち ・貝殻や漂流物集め (造形) ・グラスボート体験	4	与論の自然 (海) について調べ、身近な自然素材を活かした物づくり等を通して自然環境について知ることができる。(知識) 目的に応じて分かりやすくまとめ、表現することができる。(技能)	自分の興味・関心、体験や今までの課題をもとにして、課題を見つけることができる。(課題設定)	様々な体験を通して、今までの自分の考えや行動を振り返り、海と島とわたしたちについて、言語でまとめたり表現したりしている。(自己理解) ゲストティーチャーから主体的に学び、友達と協力して調理実習や制作をすることができる。(主体性・協働性)	インタビュー カメラ 学習発表会 新聞づくり	B&G 池田 鹿児島水族館 シーマンズビーチ川口 与論島観光協会 JA女性部 原田さん (風来坊さん) 清掃工場
10・11	・貝殻や漂流物を使って制作をする。 ・清掃センターの見学やインタビューで島の環境について学ぶ。	7					
12	・貝殻や漂流物を使って制作をする。 ・海や生物の不思議や環境問題について調べる。	7					
1・2	・ようこそ与論へ ・海や生物の不思議についてまとめる。(発表会・新聞づくり)	7					



4年生 しちみゃん 「与論島と海と私たち」

名前 ()

○与論島のふしぎ 知っていること メモ

わたしは

_____ について調



しちみゃん 「与論島と海と私たち」



名前 ()

自分のテーマ

○調べてわかったこと



月	小単元 (学習活動)	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
4 ・ 5 ・ 6	与論の海の今を知ろう。～課題設定～ ・海探検をしよう (3) ・グラスボート体験 (※休日) ・GTから学ぼう (2) (1) 漂着ゴミについて (2) サンゴについて (3) 養殖について (4) 海と環境について ・課題設定 (2) 与論と沖縄の関係を学ぶ (2) ※ 別紙計画	9	解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てることができる。	自分の興味・関心をもとに、テーマに沿った学習課題をつくることができる。	わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	ブレインライティング クラゲチャート	・B&G池田さん、南海荘有村さん (バス手配) ・池田 かなさん ・池田 りょうすけさん ・海謝美(うんじゅみ) ・原田誠一郎さん ・鹿児島水族館 柏木さん
7	与論の海を守ろう～アイデアコンテスト～ ・海と環境に関する情報収集 - 夏休みの自由研究 ・海や自然環境を守るためのアイデアの整理, 比較, 分析 (2)	2		課題解決のために必要な情報を集めることができる。また, 集めたものを蓄積することができる。	分からないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	座標軸 (4視点)	・池田りょうすけさん
9 ・ 10 ・ 11	与論の海を守ろう～体験活動を通して～ ・サンゴを増やそうプロジェクト! (5) ・環境保全PR大作戦～看板製作班・ポスター制作班～ (14)	19	解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てることができる。情報収集の手段を選択することができる。	事象を比較したり関連づけたりして課題解決に向けて考えることができる。多様な情報にある特徴を見つけることができる。	分担された自分の役割を果たすことができる。	クラゲチャート ボックスチャート ウェビングマップ	・鹿児島大学水産学部教授 ・与論町漁業協同組合 ・役場環境課 ・池田りょうすけさん
2 ・ 3	学んだことを発信し、学びを振り返ろう ・情報を整理をしよう。(2) ・プレゼンテーションをしよう。(4) ・活動全体の振り返りをしよう。(2) ・ヨロンマラソンの参加者へおうえんメッセージを書こう (2)	10		集めた情報の中から必要なものを選び出し、整理して分かりやすくまとめることができる。	学習活動で学んだことや身につけたことなどを, これからの学習や生活に生かしている。相手に自分の考えや意見を意欲的に伝えようとしている。	クラゲチャート ピラミッドチャート	・役場商工観光課 山さん

ユンヌの海と環境問題

No. 1

名前 ()

与論の海の今を知ろう

与論の海について

テーマ

調べること

発信方法

環境問題について

NO. 2

与論の海と環境問題

()

学習したこと・調べたこと

一番伝えたいこと

発表の方法

発表の構成

パワーポイントを使って発表しよう

6年生 はばたけユンヌワラビンチャー ～自分の未来を見つめて～

「与論の魅力を発信しよう」52時間

月	小単元（学習活動）	時間	育成を目指す資質・能力			思考ツール等	備考
			知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等		
4 ・ 5	沖縄についての情報を集め、修学旅行の計画を立てる ・ 観光地について ・ 歴史について ・ 食・文化について ・ 自然について	14	課題を解決するための調べ方（目的・対象・方法など）が分かる。			KJ法、イメージマップ、座標軸	
5	与論と沖縄の違いをまとめる ※ 別紙計画を参照 ・ 修学旅行を通して調べてきたことや、体験してきたことをもとに、歴史や文化、芸能等について与論と比較する	3	与論と沖縄の位置関係（社） 与論と沖縄との文化交流（与論と沖縄との関係を学ぶ学習指導案）		わからないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	ブレインストーミング	
5 ・ 6 ・ 7	与論の魅力について考えよう。～課題設定～ ・ 島巡り（観光地や施設等）をしよう（2） ・ 海体験（グラスボート）をしよう（2） ・ GTから学ぼう（2） （1）海・自然について （2）生き物について （3）観光地について （4）食・文化について （5）与論の抱える課題について ・ 課題設定（2）	8		自分の興味・関心をもとに、テーマに沿った学習課題をつくることができる。		イメージマップ	・ 役場商工観光課（山さん） ・ 観光協会（町岡さん） ・ 池田かなさん ・ 池田りょうすけさん ・ 海謝美（うんじゃみ）
9 ・ 10 ・ 12	それぞれの設定した課題に沿って活動する ・ 情報の収集、整理をする（9） ・ 調べたことをプレゼンテーションにまとめる（6）	15	自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合うことができる。	課題解決のために必要な情報を集めることができる。また、集めたものを蓄積することができる。	分からないことや疑問に思うことを自分から進んで調べようとしている。	ウェビングマップ	
1	ヨロシマラソンの参加者へ手紙を書く ・ 歓迎の気持ちと共に、与論の魅力を発信する	3	歓迎の気持ちを表す手紙の書き方（技能）	相手意識をもって与論の魅力を伝えることができる。			※ 校区内の海に行き、貝殻拾いをする。
1	発信の準備をする ・ 発表に向けての練習をする	5	情報機器や写真などの効果的な活用（情） 意見文の書き方（国）	発表の仕方を考えながら、必要な情報を集めることができる。		クラゲチャート	
2	成果の発表会をする ・ 海洋教育フェアで発表する	4		発表の仕方を工夫し、掲示用の資料を効果的に使って自分の考えを伝えることができる。	進んで社会に参画しようとし、与論の活性化のためのアイデアを発表することができる。	PowerPointでの発表	

与論中学校

海洋教育学習指導案

1年 男子 29名 女子 30名 計 59名
 指導者 1年部職員
 講師 阿多 ひさし (海謝美代表)

1 題材名 「与論の海を守るために」 (テーマ:海を知る・海を守る)

2 本時の実際

(1) 目標

海ごみについて知り、“海洋ゴミをなくし、与論や世界のキレイな海を守るために、自分たちに何ができるか”を考える。

(2) 展開

	学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 活動の目的を確認する。 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">海ごみについて知り、与論のきれいな海を守るために自分に何ができるか考えよう。</div>	5分	・身近な海に関する課題(海ごみ)について知り、その課題を解決するにはどうすればいいか、自分のこととして考えながら講話を聞かせる。
展 開	2 講師紹介・活動の流れ説明を受ける。	5分	・講話を聞きながら、疑問点・聞いてみたいことなどについてメモさせる。 ・与論のきれいな海を守るために、海岸清掃に取り組んでいるグループがあることを知らせる ・講話の内容を振り返りながら取り組ませる。 ・学んだことをワークシートに記入させる。
	3 ゴミの種類やどこから来るのか、ゴミが引き起こす問題や問題解決のためにできることについての話を聞く。	15分	
	4 海謝美の活動について知る。	5分	
	5 海ごみや与論のビーチなどについてのクイズに答える。	10分	
	6 活動の反省をする。	5分	
終 末	まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">海ごみの種類や漂着物の生産国などから、世界の海はつながっていること。与論のきれいな海を維持するために、活動している方々(海謝美)がいることがわかった。</div>	5分	

(3) 評価

海ごみについて知り、“海洋ゴミをなくし、与論や世界のキレイな海を守るために、自分たちに何ができるか”を考えることができたか。

1年ワークシート(感想)

「与論の海を守るために」

講師： 阿多ひさし さん

メモ： 話を聞きながら大事なところ、印象に残ったこと、不思議に感じたことなどを簡単に書き記しましょう。

感想： 印象に残ったこと、興味を持ったこと、疑問に感じたこと、聞いてみたいと思ったことなどを書きましょう。

- 1 -

「海ごみ拾い体験」

講師： 阿多ひさし さん

ごみ拾い体験を通して、感じたことなど書きましょう。

1日の感想：

- (1) 今日の体験学習を通して、海に対して興味を持ったこと、もっと知りたいと思ったことなどを書きましょう。

- (2) 今日の活動の中で、お互いに協力しながら取り組めたことを書きましょう。

- (3) 今日の活動で、頑張ったり、助け合ってた人たちを紹介しましょう。

- 2 -

海洋教育学習指導案

2年 男子31名 女子26名 計57名
 指導者 2年部職員
 講師（地域サポーター17名）

1 題材名 郷土学習

2 本時の実際

(1) 目標

郷土の魅力や課題を再発見する活動を通して、地域の良さを実感し、その良さが人々の努力や工夫に支えられていることに気付かせることで郷土愛を育む。

(2) 展開

	学習活動	時間	指導上の留意点
導 入	1 挨拶，流れの説明を聞く。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 各分野17名の地域サポーターを紹介する。 今後のミニレポート作成に繋げていくことを確認し，自分のオリジナルの課題を見つけられるように意識させる。
	2 学習のねらいを確認する。 学習課題 与論の各分野の知識を得，その中から魅力や課題を見つけよう。	3分	
展 開	3 各分野に係る地域サポーターから3分ずつのプレゼンを聞く。	45分	<ul style="list-style-type: none"> 与論の生活・文化・歴史・環境・産業などの分野から15名のサポーターにスライドなどを使って興味を引かせるような話題を提供する。 ワークシートに気付いたことなどをメモさせる。
	(休憩)	10分	
	4 グループワークⅠ 興味のある分野ごとに分かれて，話を聞いたり質問したりする。	20分	
	5 グループワークⅡ 分野を変えて，話を聞いたり質問したりする。	20分	<ul style="list-style-type: none"> グループの人数に差があるときは，同じような分野をひとまとめにする。 グループを巡回し，積極的に話を聞いたり，質問したりするように促す。 質問が思いつかない生徒には，「質問表」も利用させる。
終 末	6 個人のまとめをする。 まとめ ○○を解決するにはどうすればよいか，今後調べていきたい。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ミニレポート作成に取り組めるようなまとめにさせる。
	7 まとめの共有 グループ内で共有し，代表の生徒にまとめたことや感想を発表する。	5分	

(3) 評価

郷土の魅力や課題を再発見する活動を通して、地域の良さを実感し、その良さが人々の努力や工夫に支えられていることに気付かせることで郷土愛を育むことができたか。

2年郷土学習ワークシート(感想)

地域を知り・考え・発信しよう!

学年 組 姓名 ()

分類 NO 名前 活動内容 活動期間(発表記入欄)

音楽・芸術	1	川口 敏昇	鳥エンジョイ組 キャッチ&リリース	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	2	沖 隆寿	キッチン カスタネット	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
歴史・文化	3	南 勇輔	与論町教育委員会 生活学習課	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	4	沖 道成	琴平神社	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	5	菊 凜太郎	与論民俗村	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
生活	6	内野 正世 沖 朱理	あんま〜ず	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	7	裾分 龍男	消防	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ

産業	8	柳田 真希	NEEDAFU'S YUI 代表 DMO室長・サス ティナビリ ティコーディネーター	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	9	原田 治彦	農家	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	10	原田 諭	畜産家	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
自然・環境	11	箕作 広光	与論町 漁業協同組合	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	12	池田 龍介	E-Yoron	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	13	池田 剛	与論町B&G 海洋センター	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	14	池田 香菜	NPO法人海の再 生ネットワーク よろん	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ
	15	光 俊樹	与論町役場 環境課	活動内容は? 自分が共感したことは? 他、なんでもメモ

感想

海洋教育学習指導案

3年 男子21名 女子31名 計61名
 指導者 3年部職員
 講師（与論町漁業協同組合 3名）

1 題材名 ヨロンの海のために今できること

2 本時の目標

- (1) 与論町を囲む海の現状を，サンゴ増殖体験を通して知る。サンゴ増殖の成功・失敗例から，サンゴの保全や増殖の難しさや，サンゴ成長までにかかる時間などを知る。
- (2) 卒業や島だちを前にしたこの時期にふるさとについて考え，今後の与論島の海に関して自分たちができること，やりたいと考えることを引き出し，積極的に地域に貢献しようとする意欲を高める。

3 本時の実際

	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 挨拶，流れの説明を聞く。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師である漁業協同組合の3名を紹介する。 ・ 卒業や島だちを前に，与論の海の現状を知り，ふるさとのために積極的に関わろうとする意欲を喚起する。
	2 学習のねらいを確認する。 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 与論の海の現状を知り，私たちにできることを取り組もう。 </div>	3分	
展開	3 与論の海の現状について，講師の説明を聞く。 ① 漁業組合の活動について ② サンゴをめぐる現状と，保護活動について ③ 軽石の漂着が与論の海に与える影響について	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンゴの増殖活動が軌道に乗るまでには，粘り強く試行錯誤が繰り返されていたことに注目させる。 ・ 生徒会での軽石拾い活動とも関連付けさせ，ふるさとの海を守る活動を継続することの重要性に気づかせる。
	4 サンゴの増殖体験をする。 ① 植え付ける際の注意点について，講師の説明を聞く。 ② 実際にサンゴの植え付けを体験する。	40分	
終末	5 体験してみたの感想などを振り返る。 まとめ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 自分達にできることから少しずつ継続して取り組むことが，与論の海を守るために大切である。 </div>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは個人で考えさせたうえで，ペアや全体でそれぞれの感想を発表させて，考えを深める。
	6 漁業組合の方々へお礼の言葉を述べる。	5分	

4 本時の評価

与論町を囲む海の現状を知り，ふるさとについて考えることができたか。さらに，サンゴの増殖体験を通して，今後の与論島の海に関して自分たちができることに取り組み，積極的に地域に貢献しようとする意欲を高めることができたか。

与論高等学校

単元計画 1 学年

与論高等学校

単元計画（35時間）

時数	主な活動内容	探求の課程	学習形態	単元の構想
2	・プレゼンテーション視聴 ・外部講師による導入講演	課題設定 情報収集	一斉	・年間の学習のイメージを持たせる ・探究とは何かを理解させる
2	・地域サポータープレゼンテーション ・地域サポーターとの交流座談会	課題設定 情報収集	一斉	・地域の方のプレゼンテーションや交流座談会を通して、自分なりの考えや問いを持たせる
4	・個人ワークを利用した問いの仮設定 ・仮設定した問いのアウトプット（簡易プレゼンテーション） ・グループ編成	課題設定 情報収集	個人 一斉 グループ	・自らの考えをアウトプットさせてまとめる ・生徒個人の仮の問いを示し、適切なグループ編成を行う
2	・グループでの相互理解 ・問いの設定	課題設定	グループ	・グループで各個人の問いを整理し、グループで探究する問いを決定する
4	・問いと設定理由の明確化 ・発表に向けた資料作成等 ・校内中間発表会	情報収集 整理分析 まとめ・表現	グループ 一斉	・問いとその設定理由、今後の方向性を発表する ・他者評価を受けることで探究を深めていけるようにする
6	・文献やインターネットを利用した情報収集とその整理分析	情報収集 整理分析	グループ	・生徒の自主的、協働的な活動が行われるような助言に努め、生徒自身の学びを深めさせる
2	・プレゼンテーションのスキルアップのための外部講師による講演	まとめ・表現	一斉	・活動内容や情報をよりわかりやすく他者に伝える手法を学ぶ
6	・文献やインターネット、フィールドワークを利用した情報収集と整理分析 ・活動内容のまとめ、発表資料作成	情報収集 整理分析 まとめ・表現	グループ	・生徒の自主的、協働的な活動が行われるような助言に努め、生徒自身の学びを深めさせる ・発表に向けて、適切に整理・表現させる
5	・校内中間発表会 ・与論町海洋教育フェア ・全国海洋教育サミット ・発表後の構成、再調査等	まとめ・表現	グループ 一斉	・発表を通して他者評価を受ける ・評価をもとに改善や再考を行う
2	年間の活動のまとめ	まとめ	個人 グループ 一斉	・振り返りを通して、課題を考え、問うことの意識を高めさせる

単元計画 2 学年

与論高等学校

単元計画（35時間）

時数	主な活動内容	探求の課程	学習形態	単元の構想
2	・プレゼンテーション視聴 ・外部講師による導入講演	課題設定 情報収集	一斉	・年間の学習のイメージを持たせる ・探究活動の再認識
2	・地域サポータープレゼンテーション ・地域サポーターとの交流座談会	課題設定 情報収集	一斉	・地域の方のプレゼンテーションや交流座談会を通して、自分なりの考えや問いを持たせる
3	・1年次の探究活動の振り返りや前単元を参考にした問いの設定	課題設定 情報収集	個人 一斉	・1年次の探究活動や前単元の学習を通して、1年間取り組む問いをたてさせる
5	・文献やインターネットを利用した情報収集とその整理分析	情報収集 整理分析	個人	・立てた問いに対して、様々な手法を用いて深めさせる
2	・発表に向けた資料作成等 ・校内中間発表会	情報収集 整理分析 まとめ・表現	個人 一斉	・問いとその設定理由、途中経過を発表する ・他者評価を受けることで探究活動を深めていけるようにする
6	・文献やインターネットを利用した情報収集とその整理分析	情報収集 整理分析	個人	・生徒の自主的、協働的な活動が行われるような助言に努め、生徒自身の学びを深めさせる
2	・プレゼンテーションのスキルアップのための外部講師による講演	まとめ・表現	一斉	・活動内容や情報をよりわかりやすく他者に伝える手法を学ぶ
6	・文献やインターネット、フィールドワークを利用した情報収集と整理分析 ・活動内容のまとめ、発表資料作成	情報収集 整理分析 まとめ・表現	個人	・生徒の自主的、協働的な活動が行われるような助言に努め、生徒自身の学びを深めさせる ・発表に向けて、適切に整理・表現させる
5	・校内中間発表会 ・与論町海洋教育フェア ・全国海洋教育サミット ・発表後の構成、再調査等	まとめ・表現	個人 一斉	・発表を通して他者評価を受ける ・評価をもとに改善や再考を行う
2	・年間の活動のまとめ	まとめ	個人 グループ 一斉	・振り返りを通して、課題を考え、問うことの意識を高めさせる

授業ワークシート

() 番 名前 ()

1. あなたの考える探究活動とは?自由に書いてみよう

2. 近くの人と探究活動のイメージを共有しよう

3. 今日の授業を聞いて、分かったこと・感じたことは?

4. 探究活動をどのようにしていこうと考えますか?今の考えを書いてみよう

5. 今年度探究するテーマについて、今考えているものがあれば書いてみよう

問いの設定ワークシート

今年度、探究していく問い(テーマ)

テーマについて、現状知っていることや分かっていること

これから取り組む必要があること

今後の流れ

- ・問いの設定をもとに、調査・探究・フィールドワーク等を行う
- ・9月24日に中間発表

探究テーマについてまとめよう

()組()番 名前()

研究テーマ

関連するキーワード(特に重要なものを5つ程度)

なぜその探究テーマを選んだか(社会・学術の課題や与論との関連などを関連付けて)

タイトル

2年 O組 OO番 OOO OOO

探究設定の理由

現時点で分かっていること、状況、事例など

上記に対する不足事項、問題点など

今後の予定、展望など

児童・生徒発表資料



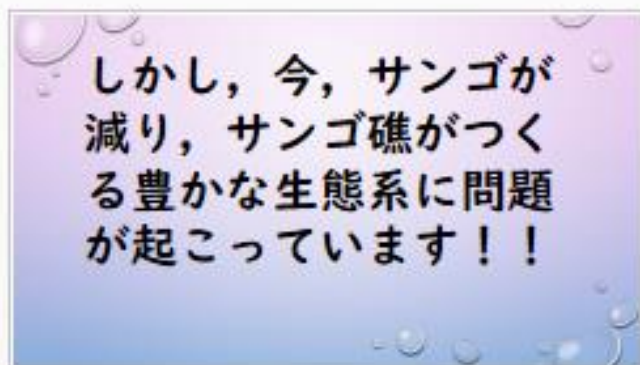
1 ★



2 ★



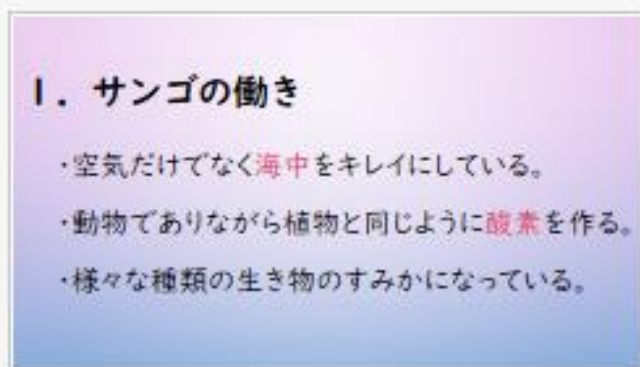
3 ★



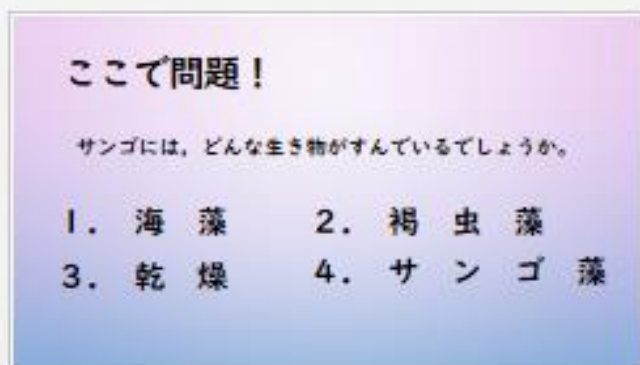
4 ★



5 ★



7 ★



正解は

褐虫藻



9

★

3. 褐虫藻とサンゴの関係



10

★

サンゴの秘密

11

★

1. サンゴの量

2005年・・・100%中68%

2012年・・・100%中26%

↓
1年で約6%ずつ減っている！！

でも・・・

現在、サンゴの増殖などサンゴを守る活動が進み、絶滅を食い止めている！！



12

★

2. 寿命

サンゴは寿命がほとんどない！

環境が許す限り生き続けることができる。



13

★

ここで問題！

もし、サンゴに寿命があったら何年生きられる？

1. 200～600年

2. 400～800年

3. 500～1000年



14

★

答えは・・・

15

★

3 500～1000年

16

★

3. 種類

サンゴには、大きく分けて柔らかいサンゴと硬いサンゴがある！

科目として多いのはミドリイシサンゴ、ハマサンゴで、その他に、ヤマカワラサンゴやウミキノコがある。



17

★

サンゴはなぜ減ったの？



18

★

原因① 「人」

- ・サンゴ礁をほる
- ・サンゴの密漁や踏み荒らして折れてしまう。
- ・赤土などがかぶさり、息がきず死んでしまう。



19

★

原因② 「環境や生き物」

- ・温暖化によるストレス
- ・台風により、サンゴが根元から折れ、破壊される。
- ・オニヒトデ
サンゴを食べてしまうことがある。



20

★

ここで問題！

サンゴの仲間はどっちでしょう？



クラゲ



ヒトデ

21

★

正解は・・・

クラゲ



サンゴは、クラゲやイソギチャクの仲間です。

22

★

次の問題！

サンゴは

歩ける？

歩けない？



23

★

正解は・・・

両方でした！

多くのサンゴは移動できませんが、クサビライシというサンゴは、ゆっくりと移動することができます。

24

★

海洋ごみって？

25

★

①海洋ごみとは・・・

- ・海岸に打ち上げられた「漂着ごみ」、海原漂う「漂流ごみ」、海底に沈んだ「海底ごみ」の総称のこと。
- ・私たちが暮らす街で発生したごみが、海洋ごみの8割をしめている。

26

★

②海洋ごみの種類

➡ プラスチック 自然物 木材 金属
ガラス 陶器 布 紙など

豆知識
1年間の漂着ごみの量
約19万t
東京ドーム115個分！



27

★

海底ごみ



28

★

漂流ゴミ



29

★

日本の海ごみ問題

30

★

①日本の海ごみの量

- ・外国から流れてくる海ごみはこんなにあります！
- ・奄美・海ごみの8割以上！
- ・対馬・種子島・串本・五島…8割！
- ・根室・函館・国東…外国せい、4～6割。
- ・※ハンブル文字の書かれたシャンプー容器
- ・（水見松太様談）。



31

★

②漂着ごみの特徴

- ① 漁具・発泡スチロール・ペットボトルが3分の2！ ➡ プラスチックが大きな割合を占めており、マイクロプラスチックなど環境に与える影響が大きい！
- ② 太平洋側に比べ、日本海側の方が漂着ごみが多い。 ➡ 中国や韓国、北朝鮮などの国からづるが流れてきている！

32

★



33



海ゴミが生き物に及ぼす影響
影響を受けた生き物の数

- ・ウミガメの約52%がプラスチックを誤飲!
海鳥は約90%もがゴミを誤飲!
- ・また、少なくとも700種の海洋生物が
海ゴミのせいで、様々な影響を受けて
いる。

34



35



36



①与論町での取り組み
拾い箱

2017年2月より、
ゴミ箱ならぬ「拾い
箱」が設置されてい
る。海に来た人が誰
でも利用できるよう
に設置!

37



早朝ボランティア

町民を中心に、早朝、海岸清掃に励む
ボランティアグループの方がいる。

他にも・・・
地元の子どもたちによる海洋環境
保全の取り組み発表や専門家の方
により講演会などを実施。

38



39



家でできること

- ・料理の汚れや油を流さない
- ・環境に配慮した洗剤を使う
- ・生ごみはたい肥として利用
- ・サンゴに優しい日焼け止めを
使う

40



海でできること

- ・砂浜は車で走らない
- ・サンゴはとらない
- ・サンゴ礁を学ぶ(体験する)
- ・ごみは持ち帰る



41

★

私たちにできること

- ・エコバックの利用
- ・ペットボトルに入った飲み物を控え、マイボトルを使う
- ・プラスチック製のスプーンやフォークの代わりにマイ箸を使う



42

★



1

目次

1. テーマ設定の理由
2. 浦島太郎～与論ver～あらすじ
3. 疑問
4. 前回の仮説と結論
5. 改めて分かったこと
6. まとの

2

テーマ設定の理由

- 与論のことが詳しく知られる資料が昔話だった
- 与論に昔から受け継がれている心を知りたかった

3



4

龍宮ヌバナシ ～浦島太郎 与論版ver.～



5

★

獲ったぞ～！！



6

★

大きくなってね！



7

★

ありがとう～



8

★



9

★

疑問

なぜ、亀ではなく魚だったのか？

✗  

10


最初の仮説

亀は昔は害獣として扱われていたから

11

理由

現在、亀による漁業への被害がある
昔も、そうだったのではないか？



12

★

結論

仮説は間違い

13

★

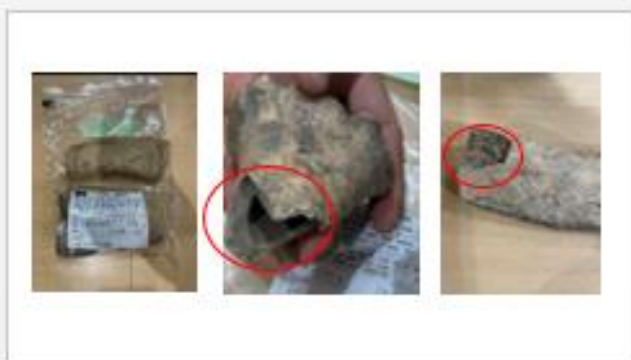
理由

昔は現在と違い食用にできた

➡そこまで、敵視する理由がない

14

★



15

疑問

なぜ、亀ではなく魚だったのか？

16

改めて読みなおして気付いたこと

なぜ、わざわざクサビにしたのか

17

★

クサビとは

○一般的には、ペラと呼ばれる。

○本誌でも数多く登場する

○ペラは様々な種類がいる。



カンムリペラ

18

クサビとウミガメの比較

クサビ → 安価でありふれている

ウミガメ → 高価で希少



19

★

結論

亀ではなく、魚にした理由

→ 命の平等さを教訓として伝えるため

20

★

与論の価値観を学んで

21

与論の心を未来まで伝えたい!

22

★

かけがえのない命を大切に

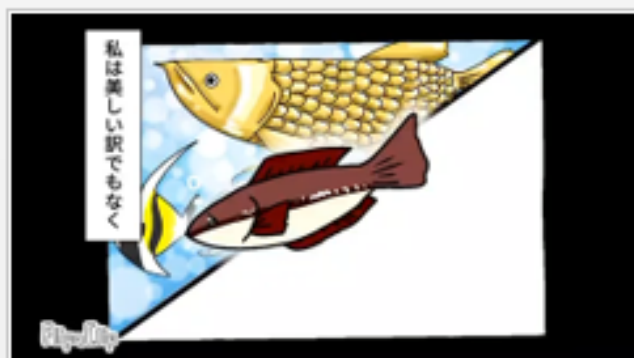
昔から受け継がれている与論の心を知ってもらうためCM風にして作成!



23

★

私は美しい訳でもなく



24

★

探究活動にご協力していただいた方々

与論町 役場生涯学習課 南 勇穂 さん
琴平神社 沖 家寿 さん

25

参考文献

菊 千代 著 与論のしまがたり
本田 碩孝 著 奄美のむかし話
山田 実 著 与論島の生活と伝承

26

ご清聴ありがとうございました

27

削減からマイボトルへ

志田佳乃，竹森友南
（鹿児島県立与論高等学校）

1. 序論

与論島の砂浜には、多くの海ごみが漂着していて、日本だけでなく他国のペットボトルやプラスチックごみが多く漂着している。また、漂着している海ごみの中にはマイクロプラスチックなど、回収が難しかったり、砂浜の景観・海の生き物に大きな影響を及ぼしたりしている。そこで、海ごみの中でも、ペットボトルやマイクロプラスチックの削減とマイボトルの普及に視点を置いて課題を設定した。

2. 本論

（1）プラスチックごみの現状とリサイクル

海ごみを拾うボランティア活動に参加し、漂着ごみの種類と量の多さを実感した。今年度は軽石漂着もあり、島のいろいろな産業に影響を及ぼした。日本で行われているリサイクル方法の半数はごみを焼却し、発電などに有効利用する方法であるため、二酸化炭素の発生につながっているということがわかった。これらのことから、リサイクルではなくプラごみの発生抑制が必要だと考えた。

（2）ペットボトルを排除した自動販売機の設置

プラごみの中でも、ペットボトルの発生抑制に取り掛かることにした。まず、自分たちの身近にある校内の自動販売機からペットボトルをなくしたいと考え、自動販売機設置業者と話をすることができた。自動販売機の設置・運営のための費用や、それを満たす利益が必要であるため、そのことを考えながら協力したいという回答を得た。次に、町役場の環境課の担当者と話をして、課内で検討してもらえることになった。

（3）関係者へのプレゼンテーションと町民への広報活動

島の環境保全に活動をしている方の賛同・協力を得て、町や観光協会、宿泊施設や自動販売機設置業者に、私たちの活動について知ってもらう機会を得た。また、町民への広報活動として、ペットボトルをなくした自動販売機にプラスチックごみの削減のために無くしていることを表示し、同時にQRコードから私たちの活動内容にアクセスできるようにしたい。

（4）マイボトルの普及

校内で行ったアンケートから、約40%の生徒がマイボトルを利用していることがわかった。町民や島を訪れる観光客からは、マイボトルを持ってきているのに給水する場所がないという声もある。頃中野なかでの給水所設置はハードルが高いと思われるが、マイカップ対応自動販売機と同時に働きかけを行っていきたい。

3. 結論

今回の発表だけで終わるのではなく、賛同してくださっている方々と協力しながら、ペットボトル削減とマイボトルの普及活動を続けていきたいと考えている。これらの活動を続けていくことで、ペットボトルの削減と、マイボトルの普及につながり、この活動が色々な場所で行われ、与論島の海だけでなく、世界の海も少しずついいように変えることができればと思う。

魅力あるお菓子の製品化で与論のサンゴを守る！

川畑 光麗, 若松 孫澄
(鹿児島県立与論高等学校)

1. はじめに

私たちのテーマは「魅力あるお菓子の製品化で与論のサンゴを守る！」です。近年、サンゴの減少が世界各地で叫ばれています。与論島も例外ではなく、観光資源として大切なサンゴの減少や白化が進んでいます。主な原因として「地球温暖化の影響」、「土砂の流入」の2つがあります。私たちは世界に自慢できる、この美しい与論島のサンゴの減少を見過ごすわけにはいかないという思いから、サンゴを模したお菓子を製品化し販売することを通して、サンゴの保護につなげていきたいと考えています。

2. 与論島のサンゴの現状

サンゴは刺胞動物門花虫綱に属する生物で、色鮮やかで形が枝分かれています。そのため植物を思わせる印象がありますが、れっきとした動物です。与論島にも生息していますが、40年前からサンゴが減り始めています。以下に、サンゴが減少している原因を述べます。

①地球温暖化によるサンゴの減少

サンゴの減少の原因の一つに地球温暖化による海水温の上昇があります。サンゴは28℃以上の海水温では白化がおこります。しかし、与論島の海水温は28℃を超える月が存在します。このことから私たちの住む与論島のサンゴの白化は進んでいます。

②土砂流入によるサンゴの減少

亜熱帯に属する与論島は降水が多い地域です。降水により土砂が海に流入し、サンゴの成長に欠かせない光合成を妨げ、サンゴが減少しています。

3. 私たちの考える取り組み

与論島のサンゴの現状をふまえて、私たちの考える取り組みは与論島のサンゴの美しさを表現したお菓子を製品化することです。材料になるべく与論島の食材を使用し、フードマイレージの抑制に取り組みたいと考えています。また、パッケージにサンゴの実状や、減少を阻止するために一人ひとりができる具体的な取り組みの方法も記載します。そして、売り上げの一部を与論島のサンゴを守る団体である「NPO法人海の再生ネットワークよろん」に寄付し、サンゴ保護の促進に貢献します。

4. 最後に

現時点でお菓子は試作品の段階ではありますが、魅力的なお菓子を製品化して、多くの人に購入してもらおうことが、美しい与論のサンゴを守ることに繋がると考えています。商品を手にする人が与論のサンゴに思いを馳せられるような商品開発を目指します。

発表会，研修の報告

1. 第2回ヨロン海洋教育フェア

実施日：令和4年1月28日

会場：砂美地来館アリーナ

参加者：与論小学校 5年生 17名 与論中学校 2年生 58名
 茶花小学校 6年生 24名 与論高等学校 1・2年生 69名
 那間小学校 5年生 11名 (児童生徒 計179名)
 引率教員・地域サポーター・保護者

目的：

- (1) 町内の小・中・高等学校が海洋教育の学習成果を共有することで、児童生徒の個々の学びを深める機会とする。
- (2) 与論の海、海に守られた伝統・文化、海と共に生きる人々の姿について児童生徒と地域の大人が学び合うことで、海洋教育の地域展開を推進する。

内容：14：10 ～ 14：15 (5) 開会式

- ・ 開会のあいさつ (教育長)
- ・ フェアの流れの説明

14：15 ～ 14：27 (12) 与論小学校の発表 (5年生)

14：29 ～ 14：41 (12) 茶花小学校の発表 (6年生)

14：43 ～ 14：55 (12) 那間小学校の発表 (5年生)

14：55 ～ 15：00 (5) 休憩

15：00 ～ 15：12 (12) 与論中学校の発表 (2年生)

15：14 ～ 15：29 (15) 与論高等学校の発表 (1・2年生代表者)

15：35 ～ 15：40 (5) 閉会式

- ・ 講評 (海洋教育部会会長)
- ・ 閉会のあいさつ (海洋教育部会顧問)



2. 第9回全国海洋教育サミット (オンラインで参加)

参加日：令和4年2月11日

参加校：与論高等学校1年生，2年生各1チームが参加

1年生テーマ：魅力あるお菓子の製品化で与論のサンゴを守る！

2年生テーマ：ペットボトル削減からマイボトルへ

3. 与論町教育研究会「海洋教育部会」

実施状況：2回（詳細は「内容」参照）

参加者： 那間小学校 川崎 哲史 教頭（海洋教育部会顧問）
与論小学校 西村 翼 教諭（海洋教育部会部員）
与論小学校 清藤 賢一 教諭（海洋教育部会部員）
茶花小学校 吉永 紀子 教諭（海洋教育部会部長）
那間小学校 有島 しほり 教諭（海洋教育部会部長）
与論中学校 西田 広一 教諭（海洋教育部会部員）
与論高校 高橋 智亮 教諭（海洋教育部会副部長）
与論町教委 兒玉 拓世 指導主事

目的：

町内全ての学校の海洋教育担当者による協議をとおして、与論町が推進する海洋教育の展開の在り方について検討する。

内容：

〔第1回 令和3年5月6日〕

- ・ 海洋教育で身に付けさせたい資質・能力について
- ・ 今年度の計画及び学校に配当する予算について
- ・ 教育課程特例校申請について
- ・ 海洋教育推進協議会による校内研修について

〔第2回 令和3年9月14日〕GoogleMeet を用いたオンライン会議

- ・ 令和4年度以降の特別の教育課程について
- ・ 「第2回海洋教育フェア」について

4. 与論町教職員等夏季研修会

タイトル：探究的な営みとしての海洋教育

講師：田口 康大先生（一般社団法人 3710Lab 主宰/東京大学海洋教育センター特任講師）

実施日：令和3年8月20日

参加者：町内小・中・高等学校職員

目的：

「海洋教育」についてのよくある先入観から脱し、その目指すところへの理解を深めること

内容：

- ・ 海洋教育に関する政策
- ・ 海洋教育の歴史
- ・ 海洋教育が取り組まれている背景
- ・ 海洋教育は何を目指すのか
- ・ 与論町の場合
- ・ 海洋教育の探究例
- ・ 海洋教育の先進地域（一例）

5. 講演会

タイトル：今、島の子供たちに必要な教育とは ～ゆんぬで育つ、学び続ける人～

講師：村瀬 公胤先生

(一般社団法人麻布教育研究所所長・教育コンサルタント)

実施日：令和3年10月21日

参加者：町内小・中・高等学校職員，保護者及び教育に関心のある町民

内 容：

- ・ 「ゆんぬ」への思い
- ・ 非認知能力を探究学習で育む
- ・ 海洋教育で地域と協働することの大切さ

タイトル：「これからの海洋教育の前提としての気候変動とSDGs」

講 師：大岩根 尚先生

実施日：令和3年10月19日

参加者：学校職員，海洋教育推進協議会関係者，保護者，地域住民

目 的：海洋教育を通じて，自分たちは世界的な課題解決のために何ができるかを考える

内 容：

- ・ グループワークでの課題の共有：「海洋教育とSDGs」
- ・ レクチャー
 - ① 気候変動の現状
 - ② 自分とのつながり
 - ③ SDGs と海洋教育の可能性
- ・ 全体での意見交換



6. 地域サポーター会

実施日：令和3年5月12，13日（少人数で複数回実施）

参加者：地域サポーター19名，海洋教育推進協議会事務局

目的：与論町海洋教育に関し，地域の理解，協力を得る。

内容：

- (1) 与論町海洋教育について
 - ・ 海洋教育とは
 - ・ 与論町での取組（活動実績と計画）
 - ・ 町全体で取り組む必要性
- (2) 与論中学校，与論高等学校で実施される授業について

- ・ 実施授業の「ねらい」について
- ・ 協力依頼内容について
- ・ 質疑応答

(3) 意見交換

昨年度に引き続き、今年度も地域サポーター会を実施。昨年度から継続して参加して頂いた方に加え、今年度新たな方々にも参加して頂くことができた。会では与論町で取り組む「海洋教育」に関する説明に加え、各学校で実際に実施された授業内容、その目的などを知っていただくことができた。「与論町海洋教育」が地域の方々にどれくらい浸透しているのか、どのように伝わっているのかなどを知る機会となっている。

また、与論中学校、与論高等学校で実施される授業に御協力いただき、地域と協同した授業の実施へと繋げることができた。



与論高等学校「ゆんぬ」の授業風景（地域サポーターが講師として参加）

(4) その他

地域サポーター、町外を含む団体、教育機関等による海洋教育授業用提案書企画・作成
登録授業数：12 団体，52 提案書（令和3年12月8日時点）